

## 研究室訪問・意見交換会②（水産学部）

5月9日（月）水産部の代表生徒5名が長崎大学水産学部を訪問し、サトイト教授と河端准教授との意見交換会を行いました。サトイト先生からは長崎県でも盛んに養殖されているマガキの生活史についての講義がありました。幼生の採苗や種苗、付着誘起物質の追跡試験等についてご説明いただきました。生徒からは二枚貝の排泄物やウイルス、東南アジアでの雨水の利用、下水を中水にする方法等について多くの質問がありました。サトイト先生と河端先生には「ミジンコを用いて水質の毒性を調査できる」等、具体例を挙げて回答していただきました。生徒からは「生物や化学の授業で学習した内容と関係していたので、興味を持って聴講できました。大学での学びに直結できるよう基礎学力をこれからも高めます」「カキ殻の浄化作用に関する今後の研究内容について考えを深めることができました」との感想が聞かれました。



## 研究室訪問・意見交換会③（RECNA）

5月10日（火）平和部の代表生徒3名が長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）を訪問し、広瀬副センター長との意見交換会を行いました。「核兵器に頼る国と頼らない国」という視点から、核兵器に対する各国の考え方をイラン等の具体的な事例を交えてわかりやすく説明していただきました。生徒からは、動物保護、平和教育、貧困、人種差別等に関する質問があり、アフリカの実例を中心に回答していただきました。また、研究の方向性について「どの地域のどんな問題に着目し、その根本的な原因や現地の人々が何を望んでいるかをよく知ることが大切」「自分たちの手の届く範囲でどんなことが現地でできるかを考え、相手を説得することが重要」との助言をいただきました。参加者からは「カナダの交流校で核兵器の非人道性について紹介する副教材を作成できないか検討します」「修学旅行でマレーシアの生徒へインタビューする項目を考えていきたい」との感想が聞かれました。

